

広島市植物公園

見どころ案内

シオン (キク科)

2mほどの直立した茎の先に、藤紫色の花を多数咲かせています。日本では平安時代から庭植えにして楽しまれていました。

シモバシラ (シソ科)

冬の冷えた朝、落葉した茎の地際に氷柱ができるので霜柱の名があります。

ハトラン (ラン科)

花の中にハトが隠れているように見えます。パナマの国花になっていますが、絶滅のおそれがあるためワシントン条約により保護されています。

隣にはサル顔に見えるモンキーオーキッドがあります

サガリバナ

(サガリバナ科)

本来は夏に咲く一夜花ですが、二番花が咲き始めました。午前中は観賞することができそうです。

ハイビスカス

アーノッティアヌス (アオイ科)

白い花弁と赤い花柱のコントラストが美しいハワイ原産のハイビスカス。暑さが和らぎ、花が増えました。

サルビア・レウカンサ (シソ科)

中央アメリカ原産のサルビアで、アメジストセージとも呼ばれます。紅紫色でピロード質の花穂がよく目立っています。

シュウメイギク

(キンポウゲ科)

名前に菊とついていますが、アネモネの仲間です。花びらのように見えるのはガクで、花びらはありません。

ヒガンバナ (ヒガンバナ科)

秋の彼岸を代表する植物。ハナショウブ園周辺は例年に比べて開花が遅く、これからが見頃となりそうです。

イズモアザミ (キク科)

中国地方西部の固有種。ビッチュウアザミとしていたものを花の特徴をもとに独立種として認めたものです。

ハギ各種 (マメ科)

ハギは秋の七草のひとつです。ハギの仲間は種類が多く、ハギ園にもいろいろなハギが植栽されています。

フジバカマ (キク科)

秋の七草の一つです。野生株は減少しており、広島県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。旅する蝶、アサギマダラが好んで集まります。

ハブソウ (マメ科)

毒虫や毒蛇、特にハブに噛まれた時の薬とされたため名がつけました。

現在ハブ茶として販売されているお茶のほぼ全てはエビスグサの種子(決明子)が使用されています。

アルテルナンテラ (ヒユ科)

カラーリーフの代表的な植物です。花壇の縁取りや寄せ植えに多用されます。中南米原産で、現地では多年草ですが寒さに弱いため日本では1年草として扱います。

展示会のご案内

- ◇ 展示資料館 (9/5~10/8)
私の好きな花たちの写真展
- ◇ 屋外展示場 (10/3~10/8)
秋の山野草展

